

第3章 戦略的創造研究推進事業の成果

戦略的創造研究推進事業は 2002 年度に開始された事業で、それまでの創造科学技術推進事業（ERATO）、戦略的基礎研究推進事業（CREST）、若手個人研究推進事業（さきがけ／PRESTO）、国際共同研究事業（ICORP）、基礎的研究発展推進事業（SORST）の特徴を活かして再編成されたものである。現在はチーム型研究（CREST 型）、個人型研究（さきがけ型）、および 2002 年度発足分以後の ERATO 型、ICORP 型の各研究事業と、すでに終了した計算科学技術活用型特定研究開発推進事業（ACT-JST）が含まれる。

今回の評価は 2001 年度以前の各研究制度も対象としているが、本報告書では、歴史的経緯の説明等で従来の表記が必要な場合を除き、全体を「戦略的創造研究推進事業」に含めて扱い、略して「本事業」と呼ぶ。また、特に断らない限り、ERATO とは現在の ERATO 型研究と以前の ERATO を表し、CREST はチーム型研究（CREST）と以前の CREST の双方を表す。PRESTO、ICORP 等についても同様である。

3-1 本事業の成果の評価の視点と方法

本事業の総合的評価に当り、成果の評価の視点を次のように定め、その基礎となるデータの集積を行った。

1) わが国の基礎研究へのインパクト

この視点からは、特に研究の直接的な目に見える成果として、先ず、研究発表論文の質の高さを示す指標として、1論文当たり被引用数及び被引用数上位1%論文の数、並びにインパクトファクターの高い雑誌への掲載状況を調査した。合わせて、外部発表論文件数のデータも呈示した。これにより、本事業のわが国の基礎研究における位置づけを明らかにし、そのインパクトを評価する基礎とした。

2) 我が国の基礎研究コミュニティへのインパクト

この視点からの本事業の位置づけとして、先ず、我が国の科学技術をリードする研究者を生み出すことに対して、本事業がいかに貢献したかを明らかにすることとした。具体的には、次のような調査とデータ解析を行った。

- ①分野別論文総被引用数ランキング
- ②我が国の一般研究者に対するアンケート調査
- ③本事業に参加した研究者に対するアンケート調査

さらに、科学技術分野で国際的に重要な賞の受賞に対する本事業の位置づけを示した。

次に、次世代を担う若い研究者の育成に本事業がいかに貢献したかを示すデータとして、さきがけ（PRESTO）が研究者のキャリア形成にどのように寄与したかを示した。

3) 我が国の科学技術、社会、産業へのインパクト

我が国の科学技術、社会、産業に対して本事業の与えたインパクトがどのようなものであったかは、評価の視点から最も重視すべきものである。ここでは、先ず、本事業を代表するものとして、制度発足以来最も年月が経っており、長期的な視点での成果と影響を評価するのに最も適切であると考えられる ERATO について、その事業が本来目指した日本の科学技術の中に新しい流れを作ることがどれほど達成されているのか、また、代表的な個別のプロジェクトにおいてはどうかであるのか、具体的な調査を行った。

次に、このような視点から、ERATO など本事業の4つの事業の特徴をキャッチフレーズという形で明らかにすることを試みた。

さらに、課題数の多い CREST とさきがけ(PRESTO)については、上記の視点から特に優れた成果を上げたとして評価できるもの50例を挙げてみた。

4) 本事業の成果の技術展開

このような視点からの目に見える研究成果としては、先ず、特許出願件数を示した。

次に、本事業の成果が更に技術展開の段階へ発展したものとして、JST 内での技術展開関係の事業に採択され研究開発が行われたものを呈示した。

また、本事業が、産業・社会・国民生活へのインパクトを持つと評価されている技術に対して、いかに寄与しているかを示した。これについては、文部科学省科学技術政策研究所が抽出した 310 の技術のリストを基に実施した。